

世界の食口の祈りと支援、届け熊本へ!

不自由な避難生活でも「一人じゃない」



①全壊してしまった食口の自宅
 ②全壊した食口の住むマンション
 ③地震で柱が傾いてしまった熊本家庭教会
 ④支援物資に喜ぶ熊本家庭教会の永井地区長(右端)と兄弟たち
 ⑤阿蘇家庭教会に届いた、兄弟の熱い思いのこもった支援物資



真のお母様、日本赤十字社に4000万円を寄付

真のお母様は熊本地震の被災者の方々のために、日本赤十字社(近衛忠輝社長)に4月20日午後、4000万円を寄付しました。

義援金は真のお母様の名代として、徳野英治会長が東京・港区にある日本赤十字社を訪問、事務局パートナーシップ推進部ボランティア活動推進室長の工藤孝志氏に目録を手渡しました。

徳野会長が「韓鶴子総裁は日本の震災を大変心配され、寄付されました」と述べたのに対して、工藤氏は心からの謝意を表し、「この寄付金は全額、被災者の皆様に配分されます」と説明しました。

現地における赤十字社の医療救援活動の報告を受けながら、徳野会長は「家庭連合としては今月22日のボランティア受け付け開始以降、青年ボランティアチーム・UPeaceと医療チームの派遣を準備しています」などと伝えました。

また、真のお母様は熊本教区の被災した教会員のために別途1000万円を寄付しました。

熊本教区内の被害状況は以下の通りです。

1 熊本家庭教会	2 阿蘇家庭教会	3 城北家庭教会	4 八代家庭教会
①負傷者 4人	①負傷者 なし	①負傷者 なし	①負傷者 1人
②家屋被害 全壊2件 半壊6件	②家屋被害 全壊1件 半壊2件	②家屋被害 6件	②家屋被害 2件
③避難者 123家庭	③避難者 75家庭	③避難者 10家庭	③避難者 12家庭

【熊本地震被害に対する義援金募集中】

送金口座 ゆうちょ銀行 記号:10140 番号:76685481
 名義:宗教法人世界平和統一家庭連合
 ※ゆうちょ銀行以外の銀行から振込みの場合は、以下になります。
 店名:〇一八(ゼロイチハチ)(普)7668548

「地震が怖くて自宅に帰れない」

熊本市内のマンションに住むAさん(07年交2)は、ご主人と5歳の女の子、3歳になったばかりの男の子と共に近くの小学校で避難生活を送っています。マンションはひびが入ってはいるものの、電気も水も問題がないため、大半の住人は生活できています。

しかしAさんは「夜地震が来たら子供が小さいので逃げられない」と、まだ帰る気になれません。避難所での生活を聞いてみました。

—朝は6時半に有志でラジオ体操。校庭は駐車場となっているため、空いたスペースを使います。朝食は7時。お弁当やおにぎりなど、その日によってさまざまです。「たくさんの人に支えられています。頑張ってください」とメッセージ付きのお弁当が心をなごませてくれま

す。夫はそのお弁当を持って出勤です。

避難当初は阿蘇家庭教会を訪ねて、パンやティッシュ、オムツ、水などをもらってしのぎました。阿蘇家庭教会には福岡、久留米、宮崎、都城、佐賀の各家庭教会などから支援物資がどんどん集まっています、とても助かりました。

教会からの一斉メールで「お母様がとても心配してくださっていること」、「阿蘇家庭教会で炊き出しをやっていきます」などとニュースが届くので、「一人じゃないんだ」と元気が出てきます。

日中は時間があるものの、ゆったりできないので少しずつストレスがたまってきます。うちの小さな子供たちは走りまわっているのでそうでもないけれど、小中学生がマンガやゲームしかできなくて大変そうです。

夜はまだ寒いです。それでも、清平用の寝袋があるので大丈夫。水がなくてもウェットティッシュで用を済ませ

るなど、まるで清平のような感じです。今思えば教会生活で良い訓練を受けてきたのかなと思います。

こういう生活をしてみて、本当に大事なものとそうでないものに気づかされます。というのも、夫の転勤で熊本に引っ越してきたのですが、真の父母さまのお部屋として考えていた部屋が、引っ越し荷物の倉庫になったままだったなあと悔い改めさせられているところです。(談)

続いて現場からの報告をまとめてみました。

怪我が人がいなかった「奇跡のマンション」

Bさん(6500双)が住むマンションは一階部分が潰れて全体が傾いており、住むことができないため、妻と娘二人で近くの中学校に避難しています。Bさんは胸を打って湿布して対処しています。このマンションは住人にけが人が一人も出なかったことから、周りから奇跡の

マンションと噂になっています。

かすり傷程度で助かる

Cさん(3億6千万双)の自宅は天井が崩れるほどでしたが、妊娠中の妻も二人の娘さんがかすり傷程度で助かりました。震災直後は近くの公園で家族身を寄せ合いながら、近所の方々と朝を待ちました。その後、最低限のものを車に積んで避難した渡鹿公園では乾パンを食べ過ぎて過ごしましたが、妊娠中の妻のことを考えて、大牟田市の親戚宅に避難しています。

阿蘇家庭教会で避難生活

Dさん(1800双)の自宅は崩壊した阿蘇大橋の近くで、建物はまだ立っていますが、中には入れない状態です。近所の民家は3軒とも完全に崩壊しました。地震の際にはタンスが倒れるなどしましたが、妻と祖母、息子さんともに怪我はなく、現在は阿蘇家庭教会に避難しています。

現地からの報告

13地区長 永井義行

2016年4月14日夜、熊本地方を襲った震度7の地震は、益城町を中心として至る所で全壊、半壊の家屋があふれました。何故この様なことになってしまったのか、天の御心は何なのかと深く考えるばかりです。

今、私の胸中には、天の父母様と真の父母様に対する申し訳ない思いと感謝の思いが同居しています。

熊本家庭教会は外壁にヒビが入り礼拝、集会等が困難な状況です。阿蘇家庭教会は建物にヒビがありますが何とか使用可能です。

食口の被害は家屋の全壊5軒、半壊以上が30軒、200家庭以上が避難しています。ライフラインも回復していませんので、大変な生活環境です。震災の初期から12地区の大きな援助や、13地区の他県からの援助により何とか生活環境を維持しています。

全壊、半壊の家庭には本部よりの迅速な対応により、お見舞い金を支給していただきました。20日には真の父母様の代身として、徳野英治会長が激震地の益城町の視察と被災している食口に激励の言葉とお母様の支援金を授与していただきました。

食口は軽いけが人が数名いますが、本当に奇跡的に神様から守られていることを感じています。全壊の家庭でも、いつもと違う場所に寝ていたり、たまたま兄弟の処に居たりして、奇跡的にけが人1人も出ませんでした。家が半壊した家庭は共同で比較的安全な家に共同生活をしています。外的には大変な状況ですが、天国生活の様に神様を中心に感謝して生活しています。

18日からは、私達は被害者ではあるが天一国の主人として、阿蘇家庭教会の駐車場で地域の皆さんの為に炊き出しを始めました、味噌汁と12地区からの支援物資を無料で配布しました。

青年部のメンバーを中心に配布したところ、初日は200人ほどでしたが、町内放送で放送していただいた事もあり、3日間で800人を超える人が来られました。支援にきた自衛隊も立ち寄り「良いことをしていますね」と味噌汁を飲んで行かれました。

また近くの施設の方が手作りのクッキーを下さったり、個人的に支援物資を岡山県から持って来られた方も教会に置いて行かれました。

まだまだ余震がつづき大雨もあり、被害の拡大が無い様に最大限の努力をして、少しでも地域の皆さんの支えとなり、食口を守り、天一国の主人としての自覚と行動をしていきます。



①真のお母様に送るビデオメッセージでポーズをとる熊本と阿蘇のメンバー



②真のお母様に送るビデオメッセージで「お母様、大丈夫です。ご安心ください」とポーズをとる徳野会長と熊本、阿蘇のメンバー



③⑤⑥阿蘇家庭教会の前で、地域住民にみそ汁や物資を渡す同教会のメンバー。19日から3日間行われた

④支援物資を受け取る永井地区長（右端）と熊本家庭教会のメンバー（4月18日）

熊本は、がんばっています！

困難な中でも、天一国主人として地域に貢献 みそ汁と支援物資、800人以上に配布／阿蘇家庭教会

信徒の声

食口と父母様の祈りに感謝

熊本教会 E・K

全国の食口が真の父母様と共に祈って下さっていることに感謝で涙が出ました。目に見えないものを意識していくことは重要だと思いました。頑張りたいと思います。

教会周辺に満ちあふれた愛

熊本教会 T・K

少しでも真のお母様を安心させてあげたいと思い、地域の方々の為に無料配給のボランティアをさせて頂きました。その場には中学生、高校生、青年を合わせて20人近い二世圏メンバーが集まりました。彼らは『苦勞している方々の為に何かしてあげたい!!』という思いが溢れ出して参加していました。

ボランティアを阿蘇家庭教会の駐車場で行いましたが、教会周辺の雰囲気は愛に満ち溢れていました。そこには一世二世という概念は無く、真の父母様を中心とする家族、兄

弟姉妹として、完全に一体化していました。

ある二世は一般の友人も呼んで、共にボランティアを行っていました。この輪の中にお母様をお呼びして直接無事を伝えたいと心から思いました。

困難な中でも家族の疎通が実現

阿蘇教会 S・Y

私たちは度重なる大地震の中で、厳しい生活していますが、全国の食口の方々からの物資と精誠のおかげで元気に生きる事ができています。自分はこの地震で天に対して何一つ恨みは無く、避難生活の中でも感謝して生きています。私の家は多くの家財と家に損害が出ました。母の仕事場は今回のことで営業が継続することは困難になっています。しかし、そういう状況の中でも、私は希望を見つける事が出来ました。私の家庭は父が聖和し、次男が県外にいる為、3人（母、私、弟）ですが、私の不徳の故の多くの恨で家族にほとんど会話が

ないほどバラバラでした。しかし、避難生活の中で、3人がよく会話できる状況になり、雰囲気は良くなりました。

食糧分け合い、助け合って暮らす

阿蘇教会 N・Y

毎日、地元メディアを通して大変な状況を伝えておりますが、私達は真の父母様の守りの中にある事を心から感謝して生活しておりますので、何も恐れていません。我が家も家の内外がメチャクチャに壊れている状況ではありますが、心は全然動揺していないのがとても不思議に思っております。

水も食糧も、お互いに分けあいながらみんなが元気です。

食口同志思いやりの心でお互いに助け合っています。天の役事はどのようになされるのか分かりませんが、全てを感謝で過ごせる自らに驚き、真の父母様の守りの中にある事が幸せです。まだまだ油断は出来ませんが、食口同志で助け合い支え合って頑張ります。

